

紀民地方 行鉄

紀州鉄道株式会社



1両編成の列車が
コトコトと走っていく。
終着駅のその先には
かつての線路と駅舎が残る。
懐かしさが散りばめられた街を
ゆつくりのんびり列車は走る。

グ オオンという勇ましいエンジン音と
は裏腹に、自転車に負けてしまいそつ
なスピードでのんびりと走る紀州鉄道。JR
御坊駅のホームの端を「間借り」した紀州鉄
道御坊駅から、1両編成のバスのような列車
に揺られて向かうのは、終着・西御坊駅。

進む。
途切れ途切れの線路を追っていった先に、
ちよつと開けた空き地があつて、ホームと駅
舎があつたと思いき土台にたどり着く。途切
れた線路の先には大きめの道路が通ってい
て、さらにその先は建物の壁が遮っている。
どうやらかつての終着駅・日高川駅跡にたど
り着いたらしい。

乗車時間は約8分。距離にして2.7km。
短い路線だと聞いてはいたけれど、本当に短
い。あつという間にたどり着いた西御坊駅で
のお目当ては、廃線跡。かつての紀州鉄道の
終着駅は、西御坊駅から二つ先の日高川駅。

ホームと駅舎があつた場所なら、立ち入り
禁止ともされていないし、上がってみてもい
いかと思つたけれど、何となく立ち入るのが
ためらわれて、一歩引いて全体を眺める。

40年ほど前に廃線になったものの、その区間
の線路や駅舎の跡が残されていて、沿線の見
所の一つになっているのだとか。

何とも不思議な雰囲気。駅舎は跡形もない
し、線路も錆びて雑草に覆われている。間違
いなく廃線跡なのだけれど、かつてあつた駅
舎やホーム、走ってきた列車の気配が残って
いる気がする。廃線跡を好んで巡る鉄道ファ
ンの気持ちがちよつとわかつた。

御坊の由来

西御坊駅の駅舎を出て、列車の前に回って
みると、なるほど車止めの柵の先にも線路が
続いている。線路はすぐに小川にぶつかり、
橋梁はなくなつてしまつている。地図アプリ
を頼つても、廃線部分の線路がどう延びてい
くのかは、よくわからない。とりあえず、対
岸の家々の間に線路の続きが延びているよう
なので、見当をつけてたどっていく。

廃線から40年、線路の一部は家の裏庭や路
地と一体化し、一部は生活道路としてコンク
リートの下に消え、大半が雑草に覆われてい
る。路地かとのぞき込んだら枕木や線路が
残っていたりもする。「立ち入り禁止」の立

御坊、西御坊、紀伊御坊。紀州鉄道の五つ
の駅のうち三つには、「御坊」という市の名
前がついている。「御坊」というと時代劇の
中などで、お坊さんがそう呼び掛けられてい
る場面が思い浮かぶ。お坊さんや寺院に対す
る尊敬語が市の名前になるとは面白い。調べ
てみたら、西御坊駅近くにある本願寺日光別
院が名前の由来だという。

て札や柵がなくなつてしまつている部分も多
い。小鳥や猫みたいに線路の上を歩いて行き
たいけれど、それはダメ。自分を戒めながら

紀州鉄道の運行は1時間に1〜2本。乗車
予定の列車が来るまでには、まだ少し時間か
ある。ということで、日高川駅跡から本願寺
日光別院まで街歩き。



西御坊駅は車止めの先にも線路が続いている。



終着・西御坊駅。

紀州鉄道

【きしゅうてつどう】

御坊駅から西御坊駅まで、2.7
kmを約8分で結ぶ。1989年
に廃線となった西御坊駅か
ら日高川駅間の線路やホ
ームが現存し、鉄道ファン
を惹きつけている。





本願寺日高別院。周辺は古い街並みが残っている。



廃線後も残されている「日高川駅」跡。



警報機だけが残された踏切跡。

いつの間にか

チエーンの飲食店や比較的新しい家々が多かった西御坊駅近くや幹線道路沿いを離れると、瓦屋根に犬矢来のある民家や商家が立ち並び一角に行き当たり、その並びに本願寺日高別院を発見。お寺に隣接した幼稚園からは子どもたちの声が聞こえてくるけれど、肝心の山門はしっかりと閉じられている。門を押し開けて入るのは気が引けて、門前の由緒書きで名前の由来を確認。高くそびえる寺院を近隣の人々が「御坊様」と呼んだことから、地名も「御坊」となったのだとか。

本願寺日高別院周辺は狭い路地が多い。路地というのは魅力的なもの。その道を行ったら何があるのか気になって、ついつい入り込んでしまう。結果、どうしても道に迷う。逆方向に歩いてしまっていたりして、実は本願寺日高別院にたどり着いた時点で、予定していた西御坊駅発の列車には乗れないことが決定していた。次の列車は約1時間後。西御坊駅まで戻って待つより、一駅隣の市役所前駅まで歩く方が楽しそう。時間を気にせず、路地の迷子を堪能する。

路地を通り古い街並みを抜けると、ゆったりとした英語の歌が流れる商店街に行き着く。立ち並ぶ建物は新しいのに、どこか懐かしい雰囲気。ただよう商店街のその先には、

どうやら駅があるらしい。さあ市役所前駅到着。と思つたら、目の前には「紀伊御坊駅」という表示。いつの間に市役所前駅を通り過ぎたのか。それほど歩いたつもりはないのに、さすが全長2.7km。駅と駅の間隔は想像以上に短いらしい。

路線図を見ると、次の学門駅も結構近い。こっちかと思われる方に足を向けると、あつという間に学門駅が見えてくる。こうなつたら御坊駅まで歩いてしまおうか。

学門駅と御坊駅の間は、線路沿いに歩ける道がない部分が多い。畑の淵をぐるりと回ったり、幹線道路をたどったり……。畑の向こうを走っていく列車を横目に、「ちよつと疲れたかも」と感じるころに、御坊駅到着。これにて紀州鉄道 全線踏破。

待ち時間の使い方

勢いで振り出しの御坊駅まで歩いて戻ってきてしまったけれど、紀州鉄道唯一の有人駅・紀伊御坊駅で、今ではなかなか珍しい紙の切符を買って乗車してみたかったんだ。時刻表を見ると、次の列車はこれまた約1時間後。

ふと思いついたのは、街歩き途中、所々で目について気になっていた「釣鐘まんじゅう」の文字。そのお菓子の由緒、安珍清姫伝説の舞台となった道成寺の最寄り駅はJRで一駅先。せっかくだから、沿線からは外れるけれど道成寺まで足を延ばすか。やっぱり紀伊御坊駅に戻ろうか。長いようで短い列車の待ち時間。さてどちらに行こうか。



道成寺を建てたのは藤原宮子姫。紀州鉄道の車両には宮子姫が描かれている。



学門駅の入場券は「学びの門(学校)に入る券」ということで受験生に人気。紀伊御坊駅で購入できる。



紀伊御坊駅では紙の切符が購入できる。切符はかなり厚くしっかりしている。